

ジャンル別アレンジ/サウンドメイク ロックンロール

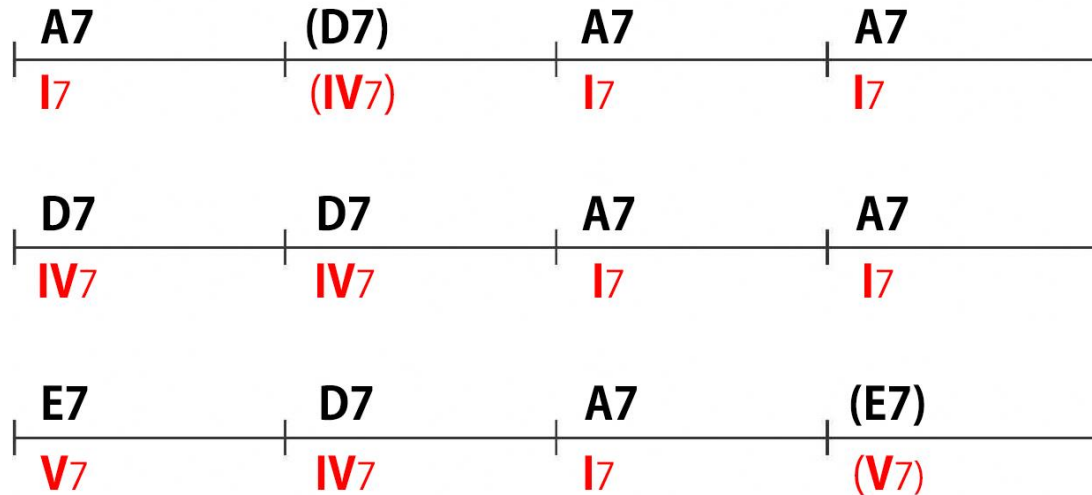
ロックンロールとは？

ブルース、R&B等の黒人音楽と、カントリー&ウェスタン等の白人音楽が融合して1950年代に登場。

シンプルなコード進行、強烈なバックビート、リーゼントや不良っぽいスタイルが特徴。

スタープレイヤー達の失脚で流行は短命に終わるがビートルズ、ローリングストーンズら新しい世代に受け継がれ、ロックへと昇華して行く。

ロックンロールの特徴



ブルース同様、概ね12小節の進行。(曲によって多少の差異はあり)

流行して行く中で循環進行(I-VI-IV-V)などのポップな進行も取り入れられた。

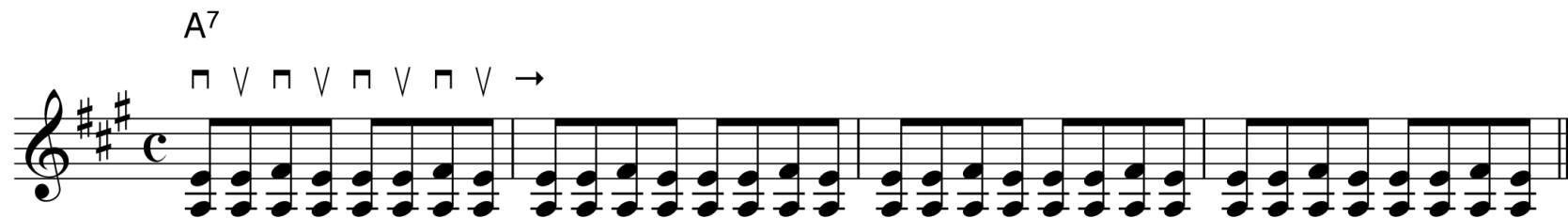
ロックンロールのサウンドメイク



Marshallはまだ登場しておらず、Fenderのコンボアンプが主流
ギターも選択肢は少ない

ハムバッカー系のギターをFender Twin Reverb等に挿しただけの
シンプルなサウンドでOK、
ロカビリー寄りのプレイならスプリングリバーブもよく合う。

ロックンロールのアレンジパターン①



ど定番のパターン。パワーコードを基調に、上の音は5thと6thでリズムを刻む。3拍めに7thまで行くパターンもあるが、かなり手が大きい人でないとしんどく、6thまでの方が多い。

ピッキングは8分のオルタネイト。ウラ拍を軽くシャッフルさせた方がそれっぽい。

基本はハイポジションで弾かれることが多い。

ロックンロールのアレンジパターン①

2、4拍目はベロシティ最大

ルートより高音の弦をやや弱めに

裏拍を僅かにシャッフル気味に

The screenshot shows a music software interface with a piano roll. The piano roll has a keyboard on the left and a staff with a grid. The staff shows a guitar arrangement pattern with red notes. The velocity lane at the bottom shows the dynamics of the notes. Annotations in Japanese provide performance instructions: '2、4拍目はベロシティ最大' (2nd and 4th beats are maximum velocity), 'ルートより高音の弦をやや弱めに' (play the higher strings slightly softer than the root), and '裏拍を僅かにシャッフル気味に' (play the backbeats with a slight shuffle feel). The interface also shows various settings and controls on the left side.

ロックンロールのアレンジパターン②



パターン①に次いでよく使われるパターン。ベースとユニゾンになる事が多い。
このようなパターンにはスプリングリバーブがよく使われる

1拍アタマ、2拍ウラ、4拍頭の3箇所アクセント。
パターン①同様ウラ拍をシャッフルさせる。

2拍アタマにミュートのアーティキュレーション。

フレーズ系の単音弾きの場合は開放弦の使えるローポジションの方が
抜けの良いパキツとした音になるのでオススメ。

ロックンロールのアレンジパターン②

2拍目裏の休符はアーティキュレーションでミュートを挿入

1拍目頭、2拍目裏、4拍目頭にアクセント

裏拍を軽くシャッフル気味に

ロックンロールのアレンジパターン③

C Am F G

□ □ □ ▽ ▽ □ ▽ →

Mute

ポップスよりの楽曲でのパターン。コード進行もブルース由来のものではない。
全弦ミュートしてコードを分散して弾くスタイル。

パターン②と同じ3箇所にあくセント。3連符は突っ込み気味に。

2拍アタマにミュートのアーティキュレーション。

ポジションはすべて同じ押さえ方で移動するため、1小節目8～10F付近、
2小節目5～7F付近、3小節目1～3F付近、4小節目3～5F付近となる。

ロックンロールのアレンジパターン③

3連符はやや遅めに入ってツッコミ気味に

1拍目頭、2拍目裏、4拍目頭にアクセント